

# 令和4年度 伴走型小規模事業者支援推進事業 地域経済動向調査まとめ

(令和4年 2022年 9月値・要約版)

この調査は、経営者のみなさまが、経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的として作成しました。たつの市及び西播磨地域が、全国と比較してどのような特徴があるのかを分析しています。詳細はたつの市商工会HPで公開しています。

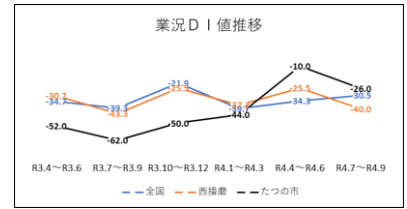
(データ出先：小規模景気動向調査、兵庫県中小企業景況調査、西播磨地域景況調査、たつの市商工会景況調査)

## 産業全体の景気動向の推移

<用語説明> D I 値 = 「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す  
(調査事業所 4、「好転」事業所 1、「悪化」事業所 3 なら、25%-75%=-50%が D I 値)

### <概要>

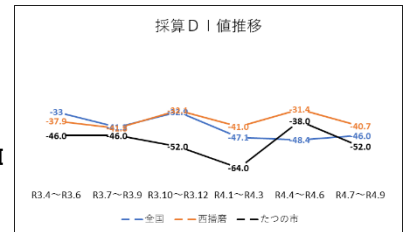
今後の見通しは依然として不透明な状況にあり、新型コロナウイルスの状況、ロシア・ウクライナ情勢を受けた資源価格・食糧価格の高騰など、中小企業の先行きへ影響を及ぼす懸念材料は複数存在する。加えて10月から実施される最低賃金の引上げ実施がコスト面に与えるさらなる影響にも注意が必要であり、今後も中小企業向けの資金繰り支援制度など、きめ細やかなサポート体制の継続が期待される。



### <地域別>

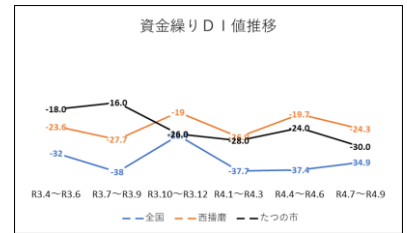
#### 【全国】

2022年7-9月期の全産業における業況判断DIは、▲30.5(前期差3.8pt増)となり、前期から回復。製造業の業況判断DIは、▲37.5(前期差4.9pt増)となり、前期から回復し、建設業の業況判断DIは、▲28.3(前期差5.7pt増)となり、前期から回復した。商業の業況判断DIは、▲38.8(前期差3.3pt増)となり、前期から回復した。サービス業の業況判断DIは、▲17.4(前期差1.2pt増)となり、前期から回復。前期に比べて全体的に回復しているが原材料高騰に歯止めがかからず、価格転嫁に追いつけていない。



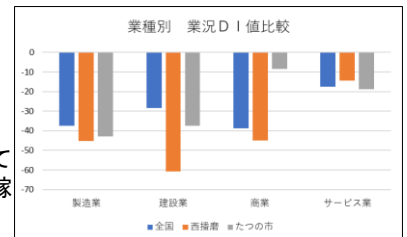
#### 【兵庫県】

企業の業況判断は、足もと改善し、先行きは悪化すると見込んでいる。個人消費は緩やかに持ち直している。輸出は増加しており、設備投資は増加計画にある。生産は一進一退の動きとなっており、有効求人倍率は、前月を上回ったが、雇用者所得は弱めの動きとなっている。倒産件数は前年を下回った。



#### 【西播磨】

西播磨全体の業況は、▲40.0(前期差14.5pt減)となり、前期から悪化。売上高は、▲37.1(前期差13.7pt減)となり、前期から悪化した。採算状況が、▲40.7(前期差9.3pt減)と悪化、資金繰りは、▲24.3(前期差4.6pt減)となり、前期から悪化した。来期は、▲36.4(前期差15.2pt減)で悪化する見込みとなっている。全国と比較しても悪化傾向となっている。



#### 【たつの市】

たつの市の業況は、▲26.0(前期差16pt減)となり、前期から悪化。売上高は、▲24.0(前期差18pt減)となり、前期から悪化し、採算状況は、▲52.0(前期差14pt減)となり前期から悪化した。資金繰りは、▲30.0(前期差6pt減)となり、前期から悪化した。来期は▲42.0(前期差28pt減)で悪化すると見通しとなっている。

第8波の予測では、新型コロナウイルス感染者の増加が懸念されており、来期は悪化するとされている。原材料の高騰による仕入れ値や商品価格の改定が次々となされ、各業種においては価格転嫁出来ない事が経営を圧迫しており、先行きが見通せない状況である。

### <業種別業況>

全国的には、産業全体の業況はコロナ第7波の収束により売上額DIが大幅に改善し、採算・資金繰り・業況DIが小幅な改善となった。全業種で売上額DIの改善がみられるものの、採算DIは低水準で推移し続けている。急激な円安によるコスト高に対し、価格転嫁が追いついていないとのコメントもある。行動規制の緩和が続き、好転の兆しが見えつつも、未だ厳しい経営環境・経営状況が続いている。

### <総括コメント>

国内景気は、緩やかに持ち直している。先行きについてはウィズコロナの新たな段階への移行が進められる中、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。

たつの市においては、人流が多い地域柄、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行いつつ、事業者においては早急な経営の立て直しと合わせ、政府の経済対策(事業復活支援金・小規模事業者持続化補助金・ものづくり補助金・事業再構築補助金等)も十分に活用しながら事業継続への取り組みを引き続き積極的に行う必要がある。

## 管内の雇用情勢

<用語説明> 有効求人倍率 = 求人数 ÷ 求職者数  
(仕事が20件 求人応募者10人 なら 2.0倍)

令和4年9月期の有効求人倍率は、全国1.34倍、兵庫県1.04倍、龍野管内1.10倍となっている。たつの市は増加傾向であるが、兵庫労働局は足元の雇用情勢について判断を据え置き「求人が求職を上回るなど持ち直しの動きがみられる」とした一方で「新型コロナウイルス感染症等が雇用に与える影響に引き続き注意する必要がある」と指摘した。

